

第十一章 航空母艦及補助航空母艦

第一節 航 空 母 艦

(一) 會議開會前ノ日英交渉

一、一月六日日英專門家會合

十二月十九日堀參事官等「クレイギー」米國局長往訪ノ際同局長ハ航空母艦ニ關シ英國側ノ意見トシテ

(イ) 艦齡ヲ二十六年ニ延長ス

(ロ) 最大排水量ヲ二萬五千噸ニ減ス

(ハ) 現規定ノ隻數ハ動カサス

(ニ) 一萬噸以下ノ航空母艦ニ付テハ何等考究シアラス

ノ四點ヲ述ヘタルカ一月六日日英專門家會合ノ際我方ヨリ前記英國側意見ニ對シ左ノ意見ヲ開陳セリ

(イ) 艦齡二十六年ノ問題ハ一定噸數以上ノモノニ付キテハ我方ニ於テモ考慮シ得ヘシ

(ロ) 最大排水量ニツキ英國側ニ於テハ二萬五千噸ニ低下然ルヘシトノ内意ナル趣ナルカ僅カ二千噸低下ノ根據ハ何ナリ

ヤト質シタルニ英國側ハ各艦種ニツキ一般的ニ噸數ヲ低下スル主義ト共ニ二萬五千噸ハ切リノヨキ數字ナリト答ヘ我

方ハ最大排水量ノ五千噸乃至一萬噸低下ハ可能ナルヘシト述ヘタリ

(ハ) 英國側ヨリ列國保有噸數ヲ低下スル意思アリヤト質問セルニ對シ我方ハ保有量低下問題ハ華府條約ノ規定ヲ變更ス

ル重大ナル問題ナルニ付今茲ニ即答ヲ躊躇スルト同時ニ航空母艦ノ關スル限り隻數ニハ制限ナキ次第ナルニ依リ主力

艦トハ別途ノ考慮ヲ要スル問題ナリト答ヘタリ

一九二九年
十二月十九日堀
參事官等一月六日
日英專門
家會合一月十三
日日英全
權會合

帝國案

英國案

各國試案
及聲明

(ニ) 英國側ヨリ航空母艦砲口徑ヲ六吋トナスコトニ關スル我方所見ヲ求メタルニ對シテハ今ノ處口徑低下ノ考ナシ但將來艦型縮小セラルレハ之ニ應シテ砲口徑低下モ可能トナルヘシト應セリ

二、一月十三日日英全權會合

一月十三日若槻、財部、松平全權「マクドナルド」首相ニ會見ノ際更ニ航空母艦問題討論セラレタルカ若槻全權ハ航空母艦ニ付テハ英國ノ意見モ其制限低下ニアリト承知スル處日本モ主義ニ於テ同意ナリ日英專門家會談ニ依レハ英國案ト日本案トノ間ニハ相當距離アリ日本ハ略々一萬六七千噸位ニ低下シ可然ト考ヘ居ルモ英國側ノ意見如何、猶今日ハ一萬噸以下ノ母艦ニ付テハ制限ナキモ補助艦ニ制限ヲ加フル以上此點問題トセサルヘカラス我案トシテハ之ヲモ併セテ條約ノ制限量内ニ組入ルル事ト致度シ然ラスンハ飛行機ノ益々發達セントスル氣運ニ鑑ミ母艦モ飛行機ト併セテ建造競争ノ目的物トナルカ如キ事アラハ誠ニ遺憾ノ至リナリト述ヘ之ニ對シ「マクドナルド」首相ハ大體御趣旨ニハ賛成ナリ猶母艦ニ關スル英國案ハ單艦最大噸數二萬五千噸英國保有量十三萬五千噸ナリ貴說ノ如ク一萬噸以下ノ母艦ヲ此噸數ニ組入ルル事ハ可然カト存ス、日本ハ一萬六七千噸迄艦型ノ縮小ヲ提唱セラルル處英國ハ二萬二千噸型四隻ヲ有ス日本ノ提議ハ代換後ノ話ナリヤ又艦齡ハ二十六年トシタキ希望ナルカ日本側ハ如何ト尋ネ若槻全權ハ艦型縮小ハ將來代換ノ際ヲ意味スルモノニシテ此點ハ專門家ノ會談ニ委ネタシ又艦齡ニ付テハ大體英國案ニ賛成ナリト云ヒ「マクドナルド」首相亦此等ノ點ハ專門家ニ委ヌル事可然シト答ヘタリ

猶一萬噸以下ノ母艦ニ關シテハ「マクドナルド」首相ノ回答不明瞭ナリシカ同首相ハ「クレイギー」ト雜誌ノ形ニテ英國海軍ハ將來母艦代換ノ際ハ一萬噸以下ヲ作ラサル一應ノ意嚮ナル旨ヲ述ヘタリ

(二) 會議開會後ノ經過

一、各國試案及聲明

各國試案又ハ聲明中ニ掲ケラレタル各國ノ航空母艦ニ對スル主張概ネ左ノ如シ

二月五日
米國試案

(イ) 二月五日米國試案

「華府條約ノ航空母艦定義ヨリ最小制限一萬噸ヲ削除シ以テ此種艦艇ハ總テ該許容噸數中ニ算入スヘシ」

二月七日
英國試案

(ロ) 二月七日英國政府聲明書

「英國政府ハ航空母艦ノ噸數及備砲ヲ制限シ一萬噸以下ノ艦船ヲモ本艦種割當總噸數中ニ加フヘキモノナリト思考ス政府ハ例ヘハ華府條約ニヨル總噸數十三萬五千噸ニ比シテ英米兩海軍ニ對シテハ總噸數十萬噸トシ各々諸國ニ對スル割當量ヲモ華府條約比率ニ基キ修整スヘキコト及最大艦型ハ二萬五千噸ヲ超エス艦齡ハ二十年ヨリ二十六年ニ延長スヘキコトヲ提議ス」

二月十二日
帝國試案

(ハ) 二月十二日帝國試案

(1) 華府條約ノ航空母艦ノ定義中ヨリ一萬噸ノ制限ヲ削除シテ此ノ種艦船ハ排水量ノ如何ニ拘ラス全部同條約ノ航空母艦制限量中ニ含マシムルコト

(2) 艦 齡

一萬噸ヲ超ユルモノ

艦齡二十六年

一萬噸以下ノモノ

艦齡二十年

二月十九日
伊國聲明書

(ニ) 二月十九日伊國聲明書

「華府條約ノ下ニ於テ伊國ハ目下六萬噸ノ數字迄建造スルノ權利ヲ有ス然レトモ伊國全權ハ歐洲大陸ノ最強國カ一定時ニ於テ現實ニ所有スル航空母艦噸數ヲ超エサルコトヲ約スルノ用意ヲ有ス」

二、日英米交渉

日英米交渉
二月十七日
日英米全權
內閣會議

(イ) 二月十七日日英米全權內閣會議ニ於テ航空母艦問題ニ言及シ「リード」全權ハ航空母艦ニ關シテハ大體ニ於テ日英米間ニ意見合致シ華府條約ノ缺點ヲ補ヒ得ヘキカ如キハ欣懷ニ存スト述ヘ若槻全權ハ此ノ問題ニ付テハ日本ハ最も多ク

四月十日
日英米全權
內閣會議

犧牲ヲ拂フ譯ナルモ競争防止ノ精神ヨリ我方ハ進ンテ帝國試案ノ提出ヲ爲シタル旨ヲ説明シ「リード」全權ハ艦齡ニ關スル件ハ追テ専門家ノ意見ヲ徵スヘシト主張シ「マクドナルド」首相ハ日本提案ニハ各國保有量ノ輕減ニ言及ナキ様ナルカ英國提案タル英米約十萬噸案ハ如何ト問ヒ若槻全權ハ日本ハ現在ノ保有量ヲ維持センコトヲ希望スルモノニシテ本艦種ノ制限ハ單艦一萬噸以下ヲモ制限ニ入ルルコトニテ實現シタキ旨ヲ答ヘタリ

(ロ) 其後華府條約ノ航空母艦定義ヨリ一萬噸ノ制限ヲ削除スルノ件以外航空母艦ニ關シテハ何等審議行ハレサリシカ四月十日日英米全權會議ニ於テ若槻全權ヨリ主力艦及航空母艦ノ艦齡艦型問題ヲ提起セルモ右ハ華府條約規定ノ事項ニシテ五國ノ同意ヲ得サレハ最後ノ決定ヲ爲シ得サル關係ニアリシ處佛伊側ハ艦齡延長ニ同意セス英米側亦之ヲ強調スルノ意向ナク結局一九三五年會議ニ持越スノ他ナキ事態トナレリ

第二節 補助航空母艦

一、三月十一日首席全權會議ノ決定

一萬噸以下ノ補助航空母艦ヲ華府條約ノ規定スル航空母艦保有量中ニ包含セシムルコトハ訓令中ニ明記シアル如ク我カ主張ニシテ二月五日ノ米國試案及二月十日英國議會ニ提出セラレタル英國政府覺書モ亦同様ノ主張ヲ掲ケ佛伊モ亦三月七日第五回第一委員會ニ於テ同趣旨ノ主張ヲ述フル所アリ三月十一日首席全權會議ニ於テ華府條約航空母艦定義中ヨリ一萬噸ノ制限ヲ撤去シ航空母艦全部ヲ華府條約所定ノ航空母艦制限噸數內ニテ賄フノ主義ヲ一同承認セリ

二、米國側新提案

米國側新提案
四月二日
首席全權
會議

然ルニ四月二日首席全權會議ニ於テ補助航空母艦及飛行機母艦ヲ何レノ類別ニ屬セシムヘキヤノ問題ニ關シ米國全權「スティムソン」ヨリ米國専門家ノ意見ニ據ルモノナリトテ此種艦艇中(イ)六百噸以上二千噸ヲ超エサルモノハ驅逐艦ノ割當噸數中ニ(ロ)二千噸以上一萬噸ヲ超エサルモノハ巡洋艦割當噸數中ニ入レハ「リスト」ニ記載セララルル現存特殊

艦ハ何レノ制限類別ニモ入レス(ニ)或國カ前記類別中ニ入ルヲ欲セサルモノニ付テハ艦名ヲ示シテ例外ヲ認ムトノ提案ヲ爲シ補助航空母艦ハ八時ヲ積ミ得ルニ付巡洋艦ト看做シ得ヘキ場合アリト説明シ之ニ對シ英國全權「アレキサンダー」及若槻全權ヨリ夫々補助航空母艦ハ華府條約所定ノ噸數ニテ賄フコトスヘク且巡洋艦ト航空母艦トハ其性能ヲ異ニスル等ノ理由ニテ反對シ結局專門家間非公式ノ談合ニ移スコトトセリ

三、米國新提案ニ關スル協定ノ成立

(イ) 四月八日及九日ノ第一委員會

四月八日
第一委員會
米國新提案ニ關スル協定ノ成立

依テ四月八日第一委員會ニ於テ英國側ヨリ補助航空母艦ハ各國隨意ニ其欲スル艦種保有量中ヨリ處辨スルヲ得ヘク若シ之ヲ華府條約規定航空母艦保有量ニ算入スル場合ニハ備砲六時ヲ超ヘサルコトヲ要スト提議シ我方主トシテ之ニ反對シ結局我方ヨリ補助航空母艦ハ之ヲ華府條約規定ノ航空母艦保有量中ヨリ處辨スヘク其備砲ハ六時ヲ超ヘサルコトヲ要ストノ妥協案ヲ出シ英國側之ニ贊シタルモ米國側反對シ結局本問題ヲ一小委員會ノ協議ニ移スコトナリ四月九日右小委員會開催(我方永井全權及豐田大佐出席)英國側ヨリ航空母艦トハ

英國側提案航空母艦定義

(A) 華府條約規定ノモノ及(B) 一萬噸ヲ超ヘサル水上補助艦船ニシテ特ニ且專ラ航空機ヲ搭載スル目的ヲ以テ設計セラレ且艦上ニ於テ航空機ノ發着シ得ヘキ構造ヲ有シ六時ヲ超ユル砲ヲ搭載セサルモノノ兩者ヲ含ムトノ趣旨ノ提案ヲナシ米國側ハ「戰艦巡洋艦等トシテ設計セラレタル艦船ニ歸着又ハ發進甲板ヲ附スルモ右ハ特ニ且專ラ航空機搭載ノ目的ヲ以テ設計セラレタルモノニ非サルヲ以テ彼上ノ航空母艦中ニ入ルモノニアラストノ明確ナル了解ノ下ニ英國側提案ニ贊成スル」旨ヲ述ヘ各國何レモ右英國提案ニ異議ナク米國ノ留保ニ對シテハ他ノ三國委員及自治領委員之ヲ受諾シタルニ依リ我方モ之ニ同意シ第一委員會ニ報告スルコトナレリ

四月十二日
第一委員會

(ロ) 四月十二日ノ第一委員會

然ルニ我カ海軍當局ニ於テハ右米國提案ヲ以テ「我國防上最モ重大ナル影響ヲ與フルモノナルニ付華府條約航空母艦

ノ定義ニ準シテ航空母艦以外ノ艦艇ニハ歸着裝置ヲ裝備セシメサルコト又已ムヲ得サレハ此ノ種艦艇ヲ極力少數ニ制限スルコトニ努力スルヲ要ス」(四月十一日海軍次官發海軍首席隨員宛電報要旨)トノ意見ナリシニ付キ我方全權及專門委員ハ米國側ト數次意見ノ交換ヲ試ミ我方ヨリ先ツ隻數制限ヲ申出ラタルモ米國側之ニ應セス技術的制限案ニ付テモ兩者ノ妥協點ヲ見出シ能ハサリシカ四月十二日第八回第一委員會ニ於テ一時休會ヲ要求シ米國側ト意見交換ノ結果右米國側留保ニ該當スヘキ裝置ハ現有主力艦ニハ一切之ヲ施ナス巡洋艦保有量ノ二十五「パーセント」以下ニ限リ之ヲ認ムルコトニ一致セリ

(ハ) 條約案ノ起草

其後條約起草委員會ニ於テハ前記第一委員會決定トシテ採用セラレタル英國案(A)及(B)ヲ一括シタル定義即「航空母艦トハ排水量ノ如何ヲ問ハス特ニ且專ラ航空機ヲ搭載スル目的ヲ以テ設計セラレ且艦上ニ於テ航空機ノ發着シ得ヘキ構造ヲ有スルモノ」(第三條一)トスル規定ヲ設ケ一萬噸以下ノ航空母艦ニ關シテハ別ニ備砲制限ニ關スル條項ヲ設クル事トセリ(第四條)

條約ノ規定